

| 授業科目 | 在宅医療薬学特論 | | | | | | | | | 臨床薬学専攻 | |
|------------|---|---|----|----|-----|-----|-----|----|--|-----------|----------|
| | Advanced Pharmaceutical Home Care | | | | | | | | | 科目コード | PHA-7730 |
| 科目区分 | 選択 | 形態 | 講義 | 単位 | 1単位 | 授業数 | 10講 | 編成 | 1クラス | 学年・開講期 | 1年・前期 |
| 科目担当者 | ○古田 精一、櫻井 秀彦 | | | | | | | | | *○印は科目責任者 | |
| 授業概要 | 現在の地域医療、在宅医療の問題点と地域包括ケアシステム構築の中で薬剤師の果たす役割を学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 一般目標 (G10) | 1. 地域医療、特に在宅患者のケアにおいて薬剤師の果たす役割は大きく、その活動の場は地方のみならず都市型の在宅医療も視野に入れなければならない。在宅医療における薬剤師の役割を理解する。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 (SBO) | 1. 我が国の少子高齢化がもたらす地域医療における様々な問題点をとらえ、地域包括ケアシステムの特徴や薬剤師が果たすべき役割などについて理解を深めることを目標とし、在宅医療に関わるチームの一員として計画書や報告書の作成を行うことができる。 | | | | | | | | | | |
| 区分 | 項目 | 授業内容 | | | | | | | 事前・事後学修 | 時間 (h) | |
| 1 | 1. 序論 (1) | 1. 医療形態の変化、多職種連携による在宅医療の実態 (古田) | | | | | | | 「区分1」の学修内容に該当する部分について、情報を収集すること。「区分1」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、情報を収集し、予習しておくこと。 | 2 | |
| 2 | 1. 序論 (2) | 1. 経済学的見地からの健康保険制度と医療形態の変化 (櫻井) | | | | | | | 「区分2」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、情報を収集し、予習しておくこと。 | 2 | |
| 3 | 1. 地方型在宅医療 (1) | 1. 地方型在宅医療の現状と課題 (古田) | | | | | | | 「区分3」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、情報を収集し、予習しておくこと。 | 2 | |
| 4 | 1. 地方型在宅医療 (2) | 1. 社会保障制度における地方型在宅医療の特色と課題 2. 相互扶助と地域社会 (櫻井) | | | | | | | 「区分4」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、情報を収集し、予習しておくこと。 | 3 | |
| 5 | 1. 地方型在宅医療 (3) | 1. 地域型在宅医療における薬剤師活動の特色 (古田) | | | | | | | 「区分5」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、情報を収集し、予習しておくこと。 | 2 | |
| 6 | 1. 都市型在宅医療 (1) | 1. 都市型在宅医療の現状と課題 (古田) | | | | | | | 「区分6」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、情報を収集し、予習しておくこと。 | 2 | |
| 7 | 1. 都市型在宅医療 (2) | 1. 社会保障制度における地方型在宅医療の特色と課題 2. 相互扶助と都市 (櫻井) | | | | | | | 「区分7」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、情報を収集し、予習しておくこと。 | 3 | |
| 8 | 1. 都市型在宅医療 (3) | 1. 都市部での医療インフラと多職種連携 2. 都市型在宅医療の推移、医療経済学的問題点 (櫻井) | | | | | | | 「区分8」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、情報を収集し、予習しておくこと。 | 4 | |
| 9 | 1. 薬剤師が持つべき在宅医療のスキル | 1. 症例に対する適切な計画作成と報告書の作成 (古田) | | | | | | | 「区分9」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、情報を収集し、予習しておくこと。 | 4 | |
| 10 | 1. これからの在宅医療 | 1. 我が国の将来と在宅医療の将来像 (櫻井) | | | | | | | 「区分10」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。また、定期試験に備え、これまでに学んだことを整理し、十分復習をすること。 | 6 | |
| テキスト | 1. 講義プリント | | | | | | | | | | |
| 参考書 | 1. 渋谷博史 他編「地域の医療と福祉」(学文社) 2. 権文善一 編「社会保障の政策転換—再分配政策の政治経済学V」(慶応義塾大学出版会) 3. 東京大学医療政策人材養成講座 編「医療政策入門 医療を動かすための13講」(医学書院) | | | | | | | | | | |

| | |
|-----------------|--|
| 成績評価 | 定期試験（100%）により評価する。 |
| オフィスアワー | <p>授業終了後～当日の夕方まで 上記以外の時間は以下のメールアドレスまで連絡してください。</p> <p>古田 B522 教員室： furuta-s(at)hokuyakudai.ac.jp 櫻井 B524 教員室： hsakurai(at)hokuyakudai.ac.jp</p> <p style="text-align: right;">*(at)は@に置き換えてください。</p> |
| DP（学位授与の方針）との関連 | <input checked="" type="checkbox"/> 北海道の医療の現状を理解し、北海道の地域医療が抱える問題を発掘し、さらに解決できる能力を有する薬剤師 <input type="checkbox"/> 科学的視点をもって高度医療に対応できる薬剤師 <input checked="" type="checkbox"/> 次世代の薬剤師を養成しうる教育・研究能力をもつ薬学部教員 |
| 関連科目 | 公衆衛生薬学特論、病院薬剤学特論 |
| 備考 | 1. 配付資料は「HPU-Moodle」にアップロードする。 |

| 授業科目 | 公衆衛生薬学特論 | | | | | | | | | 臨床薬学専攻 | |
|------------|---|---|----|----|-----|-----|-----|----|--|-----------|----------|
| | Advanced Public Health | | | | | | | | | 科目コード | PHA-7730 |
| 科目区分 | 選択 | 形態 | 講義 | 単位 | 1単位 | 授業数 | 10講 | 編成 | 1クラス | 学年・開講期 | 1年・前期 |
| 科目担当者 | ○丹保 好子、前田 伸司 | | | | | | | | | *○印は科目責任者 | |
| 授業概要 | 疾病の予防、健康の保持増進へのアプローチの方法について学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 一般目標 (G10) | 1. 公衆衛生を予防医療の観点でとらえ、保健衛生の科学的・実践的知識を修得するとともに、環境諸要因に由来する健康被害の防止について学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 (SBO) | 1. 人々の健康と疾病の現状およびその影響要因について説明できる。予防医療に貢献するために、現代社会における疾病の予防、生活環境との関連性について説明できる。 2. 感染症等が広がる仕組みや防ぐための方法について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| 区分 | 項目 | 授業内容 | | | | | | | 事前・事後学修 | 時間 (h) | |
| 1 | 1. 序論 | 1. 我が国の保健衛生の現状 2. 公衆衛生学からみた予防医療 (丹保) | | | | | | | 「区分1」の学修内容に該当する部分について事前に予習しておくこと。「区分1」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 2 | 1. 疾病と環境諸要因 (1) | 1. 成人病→生活習慣病→メタボリック症候群 2. 酸化ストレスと活性酸素 (丹保) | | | | | | | 「区分2」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 3 | 1. 疾病と環境諸要因 (2) | 1. 環境因子による活性酸素の生成 2. 薬毒物による活性酸素の生成 (丹保) | | | | | | | 「区分3」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 4 | 1. メタボリック症候群 | 1. 生活習慣と糖尿病・高血圧・脂質異常症 2. 酸化ストレスバイオマーカー 3. 治療と予防 (丹保) | | | | | | | 「区分4」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | |
| 5 | 1. 暮らしと活性酸素 | 1. 運動、エイジング、サプリメント (丹保) | | | | | | | 「区分5」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 6 | 1. 感染症の疫学 (1) | 1. 感染症の現状と動向 (前田) | | | | | | | 「区分6」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 7 | 1. 感染症の疫学 (2) | 1. 感染のメカニズム 2. 院内感染と日和見感染症の疫学 (前田) | | | | | | | 「区分7」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | |
| 8 | 1. 感染と予防 | 1. 消毒・滅菌法 2. 感染防止対策 (前田) | | | | | | | 「区分8」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 4 | |
| 9 | 1. 感染防御と免疫 | 1. 異物の病原性と免疫 2. 予防接種の効力 (前田) | | | | | | | 「区分9」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 4 | |
| 10 | 1. まとめ | 1. 国民の健康維持と公衆衛生 (丹保) | | | | | | | 「区分10」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。また、定期試験に備え、これまでに学んだことを整理し、十分復習をすること。 | 6 | |
| テキスト | 1. 講義プリント | | | | | | | | | | |

| | |
|-----------------|--|
| 参 考 書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生統計協会 編「国民衛生の動向」(厚生統計協会) 2. 上野 仁 他編「最新公衆衛生学(第6版)」(廣川書店) 3. 吉川敏一 監、内藤裕二 他編「酸化ストレスの医学(改訂第2版)」(廣川書店) 4. 中込 治 他編「標準微生物学 第12版」(医学書院) |
| 成績評価 | 定期試験(100%)により評価する。 |
| オフィスアワー | <p>授業終了後～当日の夕方まで 上記以外の時間は以下のメールアドレスまで連絡してください。</p> <p>丹保 B117 教員室 : y-tampo(at)hokuyakudai.ac.jp 前田 B411 教員室 : maeda-s(at)hokuyakudai.ac.jp</p> <p style="text-align: right;">*(at)は@に置き換えてください。</p> |
| DP(学位授与の方針)との関連 | <input type="checkbox"/> 北海道の医療の現状を理解し、北海道の地域医療が抱える問題を発掘し、さらに解決できる能力を有する薬剤師 <input checked="" type="checkbox"/> 科学的視点をもって高度医療に対応できる薬剤師 <input type="checkbox"/> 次世代の薬剤師を養成しうる教育・研究能力をもつ薬学部教員 |
| 関連科目 | 在宅医療薬学特論、情報機能薬学特論 |
| 備 考 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 配付済みのプリントは毎回、持参すること。 2. 配付資料は「HPU-Moodle」にアップロードする。 |

| 授業科目 | 薬物治療学特論 | | | | | | | | | 臨床薬学専攻 | |
|------------|---|-----------------------------|----|----|-----|-----|-----|----|--|-----------|----------|
| | Advanced Pharmacotherapy | | | | | | | | | 科目コード | PHA-7731 |
| 科目区分 | 選択 | 形態 | 講義 | 単位 | 1単位 | 授業数 | 10講 | 編成 | 1クラス | 学年・開講期 | 1年・前期 |
| 科目担当者 | ○早川 達、今田 愛也 | | | | | | | | | *○印は科目責任者 | |
| 授業概要 | 薬物治療学に関する知識を臨床活用するための方法を学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 1. ファーマシューティカル・ケアに基づいて、各種疾患に対する薬物治療計画立案とその適用について学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 (SBO) | 1. 最新の病態と薬物治療法について概説できる。 2. 症例に基づいて薬物治療計画を立案できる。 3. 適切な薬物治療について討論できる。 | | | | | | | | | | |
| 区分 | 項目 | 授 業 内 容 | | | | | | | 事前・事後学修 | 時間 (h) | |
| 1 | 1. 呼吸器疾患 (1) | 1. 症例提示、病態と最新の薬物治療法 (早川) | | | | | | | 「区分 1」の学修内容に該当する部分について、予習すること。「区分 1」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 2 | 1. 呼吸器疾患 (2) | 1. 薬物治療計画の立案と討論 (早川) | | | | | | | 「区分 2」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 3 | 1. 循環器疾患 (1) | 1. 症例提示、病態と最新の薬物治療法 (早川) | | | | | | | 「区分 3」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 4 | 1. 循環器疾患 (2) | 1. 薬物治療計画の立案と討論 (早川) | | | | | | | 「区分 4」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | |
| 5 | 1. 代謝疾患 (1) | 1. 症例提示、病態と最新の薬物治療法 (早川) | | | | | | | 「区分 5」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 6 | 1. 代謝疾患 (2) | 1. 薬物治療計画の立案と討論 (早川) | | | | | | | 「区分 6」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、情報を収集し、予習しておくこと。 | 2 | |
| 7 | 1. 腎疾患 (1) | 1. 症例提示、病態と最新の薬物治療法 (今田) | | | | | | | 「区分 7」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | |
| 8 | 1. 腎疾患 (2) | 1. 薬物治療計画の立案と討論 (今田) | | | | | | | 「区分 8」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 4 | |
| 9 | 1. 悪性腫瘍 (1) | 1. 症例提示、病態と最新の薬物治療法 (今田) | | | | | | | 「区分 9」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 4 | |
| 10 | 1. 悪性腫瘍 (2) | 1. 薬物治療計画の立案と討論 (今田) | | | | | | | 「区分 10」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。また、定期試験に備え、これまでに学んだことを整理し、十分復習をすること。 | 6 | |
| テキスト | 1. 講義プリント | | | | | | | | | | |
| 参考書 | 1. Joseph T. DiPiro et al. (Eds.), Pharmacotherapy : a pathophysiologic approach, 9th Ed., New York, McGraw-Hill Education, 2014. | | | | | | | | | | |
| 成績評価 | 定期試験 (100%) により評価する。 | | | | | | | | | | |

| | |
|--------------------------|---|
| <p>オフィスアワー</p> | <p>授業終了後～当日の夕方まで 上記以外の時間は以下のメールアドレスまで連絡してください。 早川 B310 教員室 : hayakawa(at)hokuyakudai.ac.jp 今田 B314 教員室 : kondaa(at)hokuyakudai.ac.jp</p> <p style="text-align: right;">*(at)は@に置き換えてください。</p> |
| <p>DP (学位授与の方針) との関連</p> | <p><input type="checkbox"/> 北海道の医療の現状を理解し、北海道の地域医療が抱える問題を発掘し、さらに解決できる能力を有する薬剤師 <input checked="" type="checkbox"/> 科学的視点をもって高度医療に対応できる薬剤師 <input type="checkbox"/> 次世代の薬剤師を養成しうる教育・研究能力をもつ薬学部教員</p> |
| <p>関連科目</p> | <p>臨床薬物動態学特論</p> |
| <p>備考</p> | <p>1. 配付資料は「HPU-Moodle」にアップロードする。</p> |

| 授業科目 | 情報機能薬学特論 | | | | | | | | | 臨床薬学専攻 | |
|------------|--|--|----|----|-----|-----|-----|----|--|-----------|----------|
| | Advanced Pathological Biochemistry | | | | | | | | | 科目コード | PHA-7731 |
| 科目区分 | 選択 | 形態 | 講義 | 単位 | 1単位 | 授業数 | 10講 | 編成 | 1クラス | 学年・開講期 | 1年・前期 |
| 科目担当者 | ○江川 祥子、佐藤 久美 | | | | | | | | | *○印は科目責任者 | |
| 授業概要 | 病態によって変化する生体内情報伝達、生化学的反応を理解し、薬物治療によって病態による変化の是正を学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 一般目標 (G10) | 1. 具体的な症例を基に、病態時の生体内情報伝達、生化学的反応を理解しながら、適切な薬物治療について学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 (SBO) | 1. 病態によって変化する生体内情報伝達機構や生化学的反応について説明できる。 2. 与えられた症例を解析し、最適予防法、治療法を提案できる。 | | | | | | | | | | |
| 区分 | 項目 | 授業内容 | | | | | | | 事前・事後学修 | 時間 (h) | |
| 1 | 1. 骨・関節疾患 (1) | 1. 症例提示 (骨粗鬆症) 2. 細胞内情報伝達・生化学的反応の変化からみた病態 (江川) | | | | | | | 「区分1」の学修内容に該当する部分について、予習すること。「区分1」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 2 | 1. 骨・関節疾患 (2) | 1. 最適予防法、治療法の構築 (江川) | | | | | | | 「区分2」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 3 | 1. 骨・関節疾患 (3) | 1. 症例提示 (関節リウマチ) 2. 細胞内情報伝達・生化学的反応の変化からみた病態 (江川) | | | | | | | 「区分3」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 4 | 1. 骨・関節疾患 (4) | 1. 最適予防法、治療法の構築 (江川) | | | | | | | 「区分4」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | |
| 5 | 1. 自己炎症疾患 (1) | 1. 症例提示 2. 細胞内情報伝達・生化学的反応の変化からみた病態 (江川) | | | | | | | 「区分5」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 6 | 1. 循環器系疾患 (1) | 1. 症例提示 (高血圧) 2. 細胞内情報伝達・生化学的反応の変化からみた病態 (佐藤久) | | | | | | | 「区分6」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 7 | 1. 循環器系疾患 (2) | 1. 症例提示 (心疾患) 2. 細胞内情報伝達・生化学的反応の変化からみた病態 (佐藤久) | | | | | | | 「区分7」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | |
| 8 | 1. 循環器系疾患 (3) | 1. 最適予防法、治療法の構築 (佐藤久) | | | | | | | 「区分8」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 4 | |
| 9 | 1. 糖尿病 (1) | 1. 症例提示 2. 細胞内情報伝達・生化学的反応の変化からみた病態 (佐藤久) | | | | | | | 「区分9」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 4 | |
| 10 | 1. 糖尿病 (2) | 1. 最適予防法、治療法の構築 (佐藤久) | | | | | | | 「区分10」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。また、定期試験に備え、これまでに学んだことを整理し、十分復習をすること。 | 6 | |
| テキスト | 1. 講義プリント | | | | | | | | | | |
| 参考書 | 1. 田中千賀子 他著「NEW 薬理学 (改訂第6版)」 (南江堂) | | | | | | | | | | |

| | |
|-----------------|---|
| 成績評価 | 定期試験（100％）により評価する。 |
| オフィスアワー | <p>授業終了後～当日の夕方まで 上記以外の時間は以下のメールアドレスまで連絡してください。</p> <p>江 川 B405 教員室 : sachiko(at)hokuyakudai.ac.jp 佐藤久 B407 教員室 : kumi(at)hokuyakudai.ac.jp</p> <p style="text-align: right;">*(at)は@に置き換えてください。</p> |
| DP（学位授与の方針）との関連 | <input type="checkbox"/> 北海道の医療の現状を理解し、北海道の地域医療が抱える問題を発掘し、さらに解決できる能力を有する薬剤師 <input checked="" type="checkbox"/> 科学的視点をもって高度医療に対応できる薬剤師 <input type="checkbox"/> 次世代の薬剤師を養成しうる教育・研究能力をもつ薬学部教員 |
| 関連科目 | 薬物治療学特論 |
| 備 考 | 1. 配付資料は「HPU-Moodle」にアップロードする。 |

| 授業科目 | 病態制御医薬品学特論 | | | | | | | | | 臨床薬学専攻 | |
|------------|---|--------------------------------------|----|----|-----|-----|-----|----|--|-----------|----------|
| | Advanced Medicinal Chemicals for Optimal Pharmacotherapy | | | | | | | | | 科目コード | PHA-7731 |
| 科目区分 | 選択 | 形態 | 講義 | 単位 | 1単位 | 授業数 | 10講 | 編成 | 1クラス | 学年・開講期 | 1年・前期 |
| 科目担当者 | ○伊藤 慎二、和田 浩二、桜井 光一 | | | | | | | | | *○印は科目責任者 | |
| 授業概要 | 病態制御医薬品学特論に関する知識を治療薬創製に活用するための方法を学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 一般目標 (G10) | 1. 臨床において、感染症・糖尿病・がん制御の目的で使用される医薬品およびその代謝物の作用機序、構造活性相関、効能効果、相互作用を理解し、最適な治療薬の創製について学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 (SBO) | 1. 感染症・糖尿病・がん制御医薬品の創製について、その作用機序、構造活性相関、効能効果、相互作用を関連付けて説明できる。 | | | | | | | | | | |
| 区分 | 項目 | 授業内容 | | | | | | | 事前・事後学修 | 時間 (h) | |
| 1 | 1. 序論 | 1. 臨床における感染症・糖尿病・がん制御医薬品の現状 (伊藤慎) | | | | | | | 「区分1」の学修内容に該当する部分について、予習すること。「区分1」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 2 | 1. 感染症制御医薬品(1) | 1. 相互作用を考慮した医薬品の適正使用 (特別講義) | | | | | | | 「区分2」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 3 | 1. 感染症制御医薬品(2) | 1. 天然物由来および有機化学合成の病態制御医薬品 (和田) | | | | | | | 「区分3」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 4 | 1. 感染症制御医薬品(3) | 1. バイオ医薬品を含めた分子標的治療薬 (桜井) | | | | | | | 「区分4」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | |
| 5 | 1. 糖尿病制御医薬品(1) | 1. 相互作用を考慮した医薬品の適正使用 (伊藤慎) | | | | | | | 「区分5」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 6 | 1. 糖尿病制御医薬品(2) | 1. 天然物由来および有機化学合成の病態制御医薬品 (和田) | | | | | | | 「区分6」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 7 | 1. 糖尿病制御医薬品(3) | 1. バイオ医薬品を含めた分子標的治療薬 (桜井) | | | | | | | 「区分7」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | |
| 8 | 1. がん制御医薬品(1) | 1. 相互作用を考慮した医薬品の適正使用 (伊藤慎) | | | | | | | 「区分8」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 4 | |
| 9 | 1. がん制御医薬品(2) | 1. 天然物由来および有機化学合成の病態制御医薬品 (和田) | | | | | | | 「区分9」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 4 | |
| 10 | 1. がん制御医薬品(3) | 1. バイオ医薬品を含めた分子標的治療薬 (特別講義) | | | | | | | 「区分10」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。また、定期試験に備え、これまでに学んだことを整理し、十分復習をすること。 | 6 | |
| テキスト | 1. 講義プリント | | | | | | | | | | |

| | |
|------------------|--|
| 参 考 書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 長瀬 博 監訳「最新 創薬化学（上・下）（改訂第2版）」（テクノミック） 2. 長瀬 博 監訳「改良型新薬創製のための薬科学（1・2・3）」（テクノミック） 3. ヴォート 著、田宮信雄 他訳「ヴォート生化学（上・下）（第3版）」（東京化学同人） 4. 堅田利明 他編「New 生化学（第2版）」（廣川書店） 5. 野依良治 他編「大学院講義有機化学(I, II)第2版」（東京化学同人） 6. 北 泰行 他編「創薬化学-有機合成からのアプローチ」（東京化学同人） 7. 北中 進 他編「医療を指向する天然物医薬品化学〔第2版〕」（廣川書店） 8. 野依良治 他監訳「ウォーレン有機化学(上、下)第2版」（東京化学同人） 9. 橋田 充 監修「図解で学ぶ DDS」（じほう） |
| 成績評価 | 定期試験（100%）により評価する。 |
| オフィスアワー | <p>授業終了後～当日の夕方まで 上記以外の時間は以下のメールアドレスまで連絡してください。</p> <p>伊藤慎 B105 教員室： itoh-m33(at)hokuyakudai.ac.jp 和田 B106 教員室： kowada(at)hokuyakudai.ac.jp 桜井 B406 教員室： ks51(at)hokuyakudai.ac.jp</p> <p style="text-align: right;">*(at)は@に置き換えてください。</p> |
| DP (学位授与の方針)との関連 | <input checked="" type="checkbox"/> 北海道の医療の現状を理解し、北海道の地域医療が抱える問題を発掘し、さらに解決できる能力を有する薬剤師 <input type="checkbox"/> 科学的視点をもって高度医療に対応できる薬剤師 <input type="checkbox"/> 次世代の薬剤師を養成しうる教育・研究能力をもつ薬学部教員 |
| 関連科目 | 薬物治療学特論、情報機能薬学特論 |
| 備 考 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の補完のため、講義プリントを配付する。 2. 配付資料は「HPU-Moodle」にアップロードする。 3. 「区分2」は、札幌医科大学附属病院薬剤部 藤居賢 氏による特別講義とする。 4. 「区分10」は、北海道がんセンター薬剤部 田中寛之 氏による特別講義とする。 |

| 授業科目 | 病院薬剤学特論 | | | | | | | | | 臨床薬学専攻 | |
|------------|---|----|-------------------------|----|-----|-----|-----|----|--|--------|----------|
| | Advanced Hospital Pharmacy Practice | | | | | | | | | 科目コード | PHA-7732 |
| 科目区分 | 選択 | 形態 | 講義 | 単位 | 1単位 | 授業数 | 10講 | 編成 | 1クラス | 学年・開講期 | 1年・前期 |
| 科目担当者 | 佐藤 秀紀 | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 病院薬剤師業に必要な知識を臨床の場で活用する方法を学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 一般目標 (G10) | 1. 病院で薬剤師がチーム医療の一員として活躍すべき感染対策、がん化学療法、輸液・栄養管理、院内製剤について学ぶとともに、病院薬剤師の問題点と将来の展望について考える。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 (SBO) | 1. 病院における院内感染対策について説明できる。がん化学療法薬のレジメンを評価できる。 2. 電解質輸液と栄養輸液の適応について説明できる。院内製剤の意義について説明できる。 3. 病院薬剤師の現状について、説明できるとともに将来について討議できる。 | | | | | | | | | | |
| 区分 | 項目 | | 授業内容 | | | | | | 事前・事後学修 | | 時間 (h) |
| 1 | 1. 序論 | | 1. 病院薬剤師の現状と問題点 | | | | | | 「区分1」の学修内容に該当する部分について、予習すること。「区分1」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | | 2 |
| 2 | 1. 院内感染対策 (1) | | 1. 院内で問題となる感染症と感染防止策 | | | | | | 「区分2」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | | 2 |
| 3 | 1. 院内感染対策 (2) | | 1. 抗菌薬の適正使用 | | | | | | 「区分3」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | | 2 |
| 4 | 1. がん化学療法 (1) | | 1. がん化学療法薬のレジメン評価 | | | | | | 「区分4」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | | 3 |
| 5 | 1. がん化学療法 (2) | | 1. 副作用対策と支持療法の意義と必要性 | | | | | | 「区分5」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | | 2 |
| 6 | 1. 院内製剤 | | 1. 院内製剤の意義と必要性 | | | | | | 「区分6」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | | 2 |
| 7 | 1. 水・電解質輸液 | | 1. 水・電解質輸液代謝異常と輸液製剤使用方法 | | | | | | 「区分7」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | | 3 |
| 8 | 1. 栄養管理 | | 1. 経静脈栄養と経腸栄養 | | | | | | 「区分8」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | | 4 |
| 9 | 1. 臨床での輸液栄養管理 | | 1. 症例検討 | | | | | | 「区分9」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | | 4 |
| 10 | 1. まとめ | | 1. 病院薬剤師業務の新しい展開とその実践 | | | | | | 「区分10」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。また、定期試験に備え、これまでに学んだことを整理し、十分復習をすること。 | | 6 |
| テキスト | 1. 講義プリント | | | | | | | | | | |
| 参考書 | 1. 社団法人日本病院薬剤師会 編「薬剤師のための感染制御マニュアル」(薬事日報社) 2. 国立病院機構大阪医療センター感染対策委員会 他編「新・院内感染予防対策ハンドブック」(南江堂) 3. Medical Practice 編集委員 編「第一線医師・研修医・コメディカルのための新・輸液ガイドーすぐに役立つ手技・技法のすべてー」(文光堂) | | | | | | | | | | |
| 成績評価 | 定期試験(100%)により評価する。 | | | | | | | | | | |

| | |
|--------------------------|---|
| <p>オフィスアワー</p> | <p>授業終了後～当日の夕方まで 上記以外の時間は以下のメールアドレスまで連絡してください。 B308 教員室： h. sato(at)hokuyakudai.ac.jp</p> <p style="text-align: right;">*(at)は@に置き換えてください。</p> |
| <p>DP (学位授与の方針) との関連</p> | <p><input type="checkbox"/> 北海道の医療の現状を理解し、北海道の地域医療が抱える問題を発掘し、さらに解決できる能力を有する薬剤師</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 科学的視点をもって高度医療に対応できる薬剤師</p> <p><input type="checkbox"/> 次世代の薬剤師を養成しうる教育・研究能力をもつ薬学部教員</p> |
| <p>関連科目</p> | <p>薬物治療学特論</p> |
| <p>備考</p> | <p>1. 授業の補完のため、講義プリントを配付する。 2. 配付資料は「HPU-Moodle」にアップロードする。</p> |

| 授業科目 | 病態制御薬剤学特論 | | | | | | | | | 臨床薬学専攻 | |
|------------|--|----------------------------------|----|----|-----|-----|-----|----|--|-----------|----------|
| | Advanced Drug Delivery System for Optimal Pharmacotherapy | | | | | | | | | 科目コード | PHA-7732 |
| 科目区分 | 選択 | 形態 | 講義 | 単位 | 1単位 | 授業数 | 10講 | 編成 | 1クラス | 学年・開講期 | 1年・前期 |
| 科目担当者 | ○渡辺 一弘、丁野 純男 | | | | | | | | | *○印は科目責任者 | |
| 授業概要 | 病態を制御するための最適な薬物療法について、薬物動態規定因子に関する情報とドラッグデリバリーシステム (DDS) の視点から学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 一般目標 (G10) | 1. 患者に最適な薬物療法を施すため、薬物反応性に影響する薬物動態規定因子に関する情報の活用と先端医療における DDS 製剤による治療を学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 (SBO) | 1. 薬物作用に影響する因子として、薬物体内動態に関わる薬物代謝酵素および薬物輸送担体についての情報を活用し、医薬品の適正使用への展開を概説できる。 2. 最先端の DDS の仕組みと意義を理解し、DDS 製剤の設計方法を修得する。 | | | | | | | | | | |
| 区分 | 項目 | 授業内容 | | | | | | | 事前・事後学修 | 時間 (h) | |
| 1 | 1. 薬物動態規定因子 (1) | 1. 薬物動態情報の活用：薬物代謝 (渡辺一) | | | | | | | 「区分1」の学修内容に該当する部分について、予習すること。「区分1」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 2 | 1. 薬物動態規定因子 (2) | 1. 薬物動態情報の活用：薬物トランスポーター (渡辺一) | | | | | | | 「区分2」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 3 | 1. 薬物動態規定因子 (3) | 1. 疾患時における薬物動態 (渡辺一) | | | | | | | 「区分3」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 4 | 1. 薬物動態規定因子 (4) | 1. 薬物動態に影響を及ぼす相互作用 (渡辺一) | | | | | | | 「区分4」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | |
| 5 | 1. 薬物動態規定因子 (5) | 1. 病態制御に繋がる薬物動態調節 (渡辺一) | | | | | | | 「区分5」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 6 | 1. DDS (1) | 1. DDS の目的と意義 (丁野) | | | | | | | 「区分6」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 7 | 1. DDS (2) | 1. 製剤設計・開発と DDS (特別講義) | | | | | | | 「区分7」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | |
| 8 | 1. DDS (3) | 1. 経口投与型 DDS、経粘膜投与型 DDS (丁野) | | | | | | | 「区分8」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 4 | |
| 9 | 1. DDS (4) | 1. 経肺投与型 DDS、経皮投与型 DDS (丁野) | | | | | | | 「区分9」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 4 | |
| 10 | 1. DDS (5) | 1. 遺伝子治療と遺伝子デリバリー (丁野) | | | | | | | 「区分10」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。また、定期試験に備え、これまでに学んだことを整理し、十分復習をすること。 | 6 | |
| テキスト | 1. 講義プリント | | | | | | | | | | |
| 参考書 | 1. 古田 隆 他編「テラーメイド医療：薬物療法の個別化」(京都廣川書店) 2. 日本医療薬学会 編「医療薬学フロンティア 薬物動態情報と薬物治療編」(薬事日報社) 3. 金尾義治 著「進歩する薬物療法 DDS 最前線 (第2版)」(廣川書店) 4. 橋田 充 監修「図解で学ぶ DDS」(じほう) | | | | | | | | | | |
| 成績評価 | 定期試験 (100%) により評価する。 | | | | | | | | | | |

| | |
|--------------------------|---|
| <p>オフィスアワー</p> | <p>授業終了後～当日の夕方まで 上記以外の時間は以下のメールアドレスまで連絡してください。 渡辺一 B409 教員室 : watanabe(at)hokuyakudai.ac.jp 丁野 B408 教員室 : s-chono(at)hokuyakudai.ac.jp</p> <p style="text-align: right;">*(at)は@に置き換えてください。</p> |
| <p>DP (学位授与の方針) との関連</p> | <p><input type="checkbox"/> 北海道の医療の現状を理解し、北海道の地域医療が抱える問題を発掘し、さらに解決できる能力を有する薬剤師 <input checked="" type="checkbox"/> 科学的視点をもって高度医療に対応できる薬剤師 <input type="checkbox"/> 次世代の薬剤師を養成しうる教育・研究能力をもつ薬学部教員</p> |
| <p>関連科目</p> | <p>薬物治療学特論、病院薬剤学特論、遺伝子解析学特論、臨床薬物動態学特論</p> |
| <p>備考</p> | <p>1. 授業の補完のため、講義プリントを配付する。 2. 配付資料は「HPU-Moodle」にアップロードする。 3. 「区分7」は、杏林製薬株式会社 CMC 研究所 製剤担当 ■課長 福田 守 氏による特別講義とする。</p> |

| 授業科目 | 遺伝子解析学特論 | | | | | | | | | 臨床薬学専攻 | |
|------------|---|---|----|----|-----|-----|-----|----|--|-----------|----------|
| | Advanced Genomic Analysis | | | | | | | | | 科目コード | PHA-7733 |
| 科目区分 | 選択 | 形態 | 講義 | 単位 | 1単位 | 授業数 | 10講 | 編成 | 1クラス | 学年・開講期 | 1年・前期 |
| 科目担当者 | ○三浦 淳、多田 均 | | | | | | | | | *○印は科目責任者 | |
| 授業概要 | 個別化医療の実現に必要な遺伝子解析や個別化薬物投与設計学の知識を学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 一般目標 (G10) | 1. 薬剤師として必要な遺伝子解析に関する知識を学び、個別化医療、遺伝子診断、母集団薬物速度論を用いた解析により臨床現場で活用できる能力を養う。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 (SBO) | 1. 個別化医療の臨床応用について説明できる。 2. 遺伝子診断の臨床応用について説明できる。 3. 母集団薬物速度論への応用について説明できる。 4. SNPs 検出法の最新技術を習得する。 | | | | | | | | | | |
| 区分 | 項目 | 授業内容 | | | | | | | 事前・事後学修 | 時間 (h) | |
| 1 | 1. 序論 | 1. 個別化医療と遺伝子診断 (三浦) | | | | | | | 「区分1」の学修内容に該当する部分について、予習すること。「区分1」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 2 | 1. SNPs (1) | 1. SNPs の意義、SNPs の検出方法 (特にリアルタイム PCR 法による検出の原理) (多田) | | | | | | | 「区分2」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 3 | 1. SNPs (2) | 1. SNPs 情報とデータベース及び SNPs による影響 (多田) | | | | | | | 「区分3」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 4 | 1. ヒトプロテオーム解析 | 1. ヒトプロテオーム解析と解析技術の基礎 (多田) | | | | | | | 「区分4」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | |
| 5 | 1. 個別化医療 (1) | 1. 症例提示：患者の遺伝子多型と遺伝子変異 (三浦) | | | | | | | 「区分5」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 6 | 1. 個別化医療 (2) | 1. 遺伝子疫学 (三浦) | | | | | | | 「区分6」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | |
| 7 | 1. 遺伝子診断 (1) | 1. 症例提示：遺伝子診断 (三浦) | | | | | | | 「区分7」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | |
| 8 | 1. 遺伝子診断 (2) | 1. 遺伝子診断の倫理問題 (三浦) | | | | | | | 「区分8」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 4 | |
| 9 | 1. 個別化医療 (3) | 1. 母集団薬物速度論の基礎と遺伝子情報のコーディング (多田) | | | | | | | 「区分9」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 4 | |
| 10 | 1. 個別化医療 (4) | 1. 母集団薬物解析プログラムへの遺伝子情報の組み込みとその解析 (多田) | | | | | | | 「区分10」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。また、定期試験に備え、これまでに学んだことを整理し、十分復習をすること。 | 6 | |
| テキスト | 1. 講義プリント | | | | | | | | | | |
| 参考書 | 1. 中村祐輔 著「これからのゲノム医療を知る」(羊土社) 2. 菅野純夫 監修「よくわかるゲノム医学 ヒトゲノムの基本からテーラーメイド医療まで」(羊土社) | | | | | | | | | | |
| 成績評価 | 定期試験(100%)により評価する。 | | | | | | | | | | |

| | |
|--------------------------|---|
| <p>オフィスアワー</p> | <p>授業終了後～当日の夕方まで 上記以外の時間は以下のメールアドレスまで連絡してください。 三浦 B312 教員室 : miura-j(at)hokuyakudai.ac.jp 多田 B523 教員室 : h-tada(at)hokuyakudai.ac.jp</p> <p style="text-align: right;">*(at)は@に置き換えてください。</p> |
| <p>DP (学位授与の方針) との関連</p> | <p><input type="checkbox"/> 北海道の医療の現状を理解し、北海道の地域医療が抱える問題を発掘し、さらに解決できる能力を有する薬剤師 <input checked="" type="checkbox"/> 科学的視点をもって高度医療に対応できる薬剤師 <input type="checkbox"/> 次世代の薬剤師を養成しうる教育・研究能力をもつ薬学部教員</p> |
| <p>関連科目</p> | <p>薬物治療学特論、臨床薬物動態学特論</p> |
| <p>備考</p> | <p>1. 授業の補完のため、講義プリントを配付する。 2. 配付資料は「HPU-Moodle」にアップロードする。</p> |

| 授業科目 | 臨床薬物動態学特論 | | | | | | | | 臨床薬学専攻 | | |
|------------|--|---|----|----|-----|-----|-----|--|--------|-----------|-------|
| | Advanced Clinical Pharmacokinetics | | | | | | | | 科目コード | PHA-7733 | |
| 科目区分 | 選択 | 形態 | 講義 | 単位 | 1単位 | 授業数 | 10講 | 編成 | 1クラス | 学年・開講期 | 1年・前期 |
| 科目担当者 | ○猪爪 信夫、戸田 貴大 | | | | | | | | | *○印は科目責任者 | |
| 授業概要 | 臨床薬物動態学に関する知識を治療的薬物モニタリング（TDM）により臨床活用するための方法を学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 一般目標 (G10) | 1. 安全で最大の薬物治療効果を得るため、薬剤師が医療チームの中で、患者体内における薬物血中濃度変化を薬物動態学的視点から理解し、TDMにより臨床イベントを的確に解釈、評価することを学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 (SBO) | 1. 患者の状態把握、最適な採血時間の設定、薬物血中濃度の測定、得られた薬物血中濃度からその後の薬物血中濃度を予測、最適投与計画の立案と提案、投与計画の再調整など、一連の治療薬物モニタリング（TDM）業務ができる。 | | | | | | | | | | |
| 区分 | 項目 | 授業内容 | | | | | | 事前・事後学修 | 時間 (h) | | |
| 1 | 1. 序論 | 1. 個別化医療に繋がる臨床薬物動態学 (猪爪) | | | | | | 「区分1」の学修内容に該当する部分について、予習すること。「区分1」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | | |
| 2 | 1. 疾病による薬物動態変化 (1) | 1. 疾病による遊離形薬物濃度変化 (猪爪) | | | | | | 「区分2」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | | |
| 3 | 1. 疾病による薬物動態変化 (2) | 1. 肝疾患患者の薬物動態 (猪爪) | | | | | | 「区分3」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | | |
| 4 | 1. 疾病による薬物動態変化 (3) | 1. 心・腎疾患患者の薬物動態 (猪爪) | | | | | | 「区分4」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 2 | | |
| 5 | 1. TDM 実際 (1) | 1. 免疫抑制薬 2. 循環器用薬 3. テオフィリン (戸田) | | | | | | 「区分5」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | | |
| 6 | 1. TDM 実際 (2) | 1. 抗てんかん薬 2. 抗がん薬 (戸田) | | | | | | 「区分6」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | | |
| 7 | 1. TDM 実際 (3) | 1. アミノ配糖体 2. グリコペプチド系抗生物質 (戸田) | | | | | | 「区分7」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 3 | | |
| 8 | 1. 臨床での TDM (症例提示と解析) (1) | 1. 免疫抑制薬 2. 循環器用薬 3. テオフィリン (猪爪) | | | | | | 「区分8」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 4 | | |
| 9 | 1. 臨床での TDM (症例提示と解析) (2) | 1. 抗てんかん薬 2. 抗がん薬 (戸田) | | | | | | 「区分9」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。次回の学修内容に該当する部分について、予習しておくこと。 | 4 | | |
| 10 | 1. 臨床での TDM (症例提示と解析) (3) | 1. アミノ配糖体 2. グリコペプチド系抗生物質 (戸田) | | | | | | 「区分10」の学修内容に該当する配付資料などを復習すること。また、定期試験に備え、これまでに学んだことを整理し、十分復習をすること。 | 5 | | |
| テキスト | 1. 講義プリント | | | | | | | | | | |
| 参考書 | 1. 猪爪信夫 他編「個別化医療を目指した臨床薬物動態学 第I、II分冊」(廣川書店) 2. 日本臨床薬理学会 編「臨床薬理学(第3版)」(医学書院) 3. 加藤隆一 著「臨床薬物動態学(改訂第4版)」(南江堂) | | | | | | | | | | |
| 成績評価 | 定期試験(100%)により評価する。 | | | | | | | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| <p>オフィスアワー</p> | <p>授業終了後～当日の夕方まで 上記以外の時間は以下のメールアドレスまで連絡してください。 猪爪 B306 教員室： nobuo_inotsume(at)hokuyakudai.ac.jp 戸田 B309 教員室： toda(at)hokuyakudai.ac.jp</p> <p style="text-align: right;">*(at)は@に置き換えてください。</p> |
| <p>DP(学位授与の方針)との関連</p> | <p><input type="checkbox"/>北海道の医療の現状を理解し、北海道の地域医療が抱える問題を発掘し、さらに解決できる能力を有する薬剤師 <input checked="" type="checkbox"/>科学的視点をもって高度医療に対応できる薬剤師 <input checked="" type="checkbox"/>次世代の薬剤師を養成しうる教育・研究能力をもつ薬学部教員</p> |
| <p>関連科目</p> | <p>薬物治療学特論、遺伝子解析学特論</p> |
| <p>備考</p> | <p>1. 授業の補完のため、講義プリントを配付する。 2. 配付資料は「HPU-Moodle」にアップロードする。</p> |

臨床薬学課題研究
Theme Research in Clinical Pharmacy

PHA-7939
必修 20 単位

臨床薬学課題
研究担当教員

■ 授業のねらい

臨床薬学課題研究担当教員のもとで、専門的知識と技術を習得するために課題研究を行い、その成果を発表し博士論文を作成する。

■ 授業開講数

1年次～4年次通年

■ 授業計画

| 分野 | 課題研究担当者 | 課題研究内容 |
|---------|----------------------------|--|
| 地域医療薬学 | ○古田 精一 ○櫻井 秀彦 | ・在宅医療が継続されるために必要な因子に関する研究 ・在宅医療の医療経済学的側面からの評価に関する研究 ・薬局業務の評価に関する研究 (在宅医療薬学特論) |
| | ○丹保 好子 ○前田 伸司 | ・予防医学、未病など健康の維持・増進、保健衛生の諸問題の分析と評価 (公衆衛生薬学特論) |
| 薬物治療学 | ○早川 達 ○今田 愛也 | ・薬物治療の解析と薬学的ケアに関する研究 ・臨床で汎用されている医薬品の適正使用に関する研究 (薬物治療学特論) |
| | ○佐藤 久美 ○江川 祥子 | ・心血管系疾患治療薬の情報伝達系に関する研究 ・インスリン抵抗性発症に関与する情報伝達系に関する研究 ・関節リウマチの疾患、治療効果を評価するバイオマーカーに関する研究 (情報機能薬学特論) |
| | ○伊藤 慎二 ○桜井 光一 ○和田 浩二 | ・エストロゲンの代謝活性化に関する研究 ・活性酸素による膵臓β細胞のアポトーシスと糖尿病発症 ・脂肪細胞への分化と獲得機能に関する研究 ・アイヌ伝承の薬用及び食用植物の生理活性成分の探索研究 ・天然生理活性化合物をリード化合物とする抗がん薬及び抗 HIV 薬の創製研究 (病態制御医薬品学特論) |
| 臨床薬剤学 | ○佐藤 秀紀 | ・院内製剤の調製と評価に関する研究 ・院内感染対策と抗菌薬の使用状況に関する研究 ・局所麻酔薬の頭皮下投与における体内動態に関する研究 (病院薬剤学特論) |
| | ○渡辺 一弘 ○丁野 純男 | ・薬物動態制御因子（薬物トランスポーター、薬物代謝酵素）と薬物相互作用に関する研究 ・製剤及びドラッグデリバリーシステムに関する研究 (病態制御薬剤学特論) |
| 個別化医療薬学 | ○三浦 淳 ○多田 均 | ・精神・神経疾患に関する研究 ・臨床薬剤師業務の発展をめざした遺伝子情報の解析と評価 (遺伝子解析学特論) |
| | ○猪爪 信夫 ○戸田 貴大 | ・薬物の体内動態と臨床効果の個体差に関するエビデンス構築 ・薬物血中濃度と臨床効果データの母集団解析によるエビデンス構築 (臨床薬物動態学特論) |

○：博士論文指導教員

■ 成績評価

臨床薬学課題研究への取組み態度及び成果の発表と博士論文をもとに総合的に評価する。

特論演習（臨床薬学専攻）
Practice in Clinical Pharmacy

PHA-78XX
選択6単位

各特論演習
担当教員

- 授業のねらい
特論演習担当教員のもとで、各特論の履修内容を深め、専門分野の知識を習得するために演習を行う。

- 授業開講数
60講

■ 授業計画

| 分野 | 特論演習名 | 演習内容 |
|-------------|--------------------------|---|
| 地域医療 薬学 | 在宅医療薬学特論演習 PHA-7830 | ・在宅医療における薬剤師の役割とその介入による効果を検証する。 ・在宅医療の有用性を医療経済学的な視点から検証する。 ・在宅医療に必要な薬剤師のスキルを検証する。 ○古田精一・○櫻井秀彦 ・坂東 勉・村上美穂・岸本桂子 |
| | 公衆衛生薬学特論演習 PHA-7830 | ・公衆衛生薬学に関する論文の読解・発表・討論をとおして、研究計画の立案、研究手法、データ整理の方法を学び、問題解決能力を身につける。 ○丹保好子・○前田伸司・立浪良介 |
| 薬物治療学 | 薬物治療学特論演習 PHA-7831 | ・薬物治療学および臨床薬学課題研究に関連する文献調査、報告と討論 ・諸外国における疾患別薬物治療症例の解析 ○早川 達・○今田愛也・大滝康一・町田麻依子 |
| | 情報機能薬学特論演習 PHA-7831 | ・情報機能薬学に関する論文の読解・発表・討論、症例検討をとおして、研究計画の立案、研究手法、データ整理の方法を学び、問題解決能力と薬物治療の実践力を身につける。 ○江川祥子・○佐藤久美・小松健一・高栗 郷・今井伸一・若命浩二 |
| | 病態制御医薬品学特論演習 PHA-7831 | ・病態制御医薬品学および課題研究に関連した文献調査・討論 ・病態制御医薬品学および課題研究についての報告・討論 ○伊藤慎二・○和田浩二・○桜井光一・水上徳美 |
| 臨床薬剤学 | 病院薬剤学特論演習 PHA-7832 | ・病院薬剤師がチーム医療の一員として活躍できる業務の現状分析やその業務の問題点を科学的に解決したことに関する論文の読解・発表・討論をとおして、研究計画の立案、研究手法、データ整理の方法を学び、問題解決能力を身につける。 ○佐藤秀紀・山下美妃 |
| | 病態制御薬剤学特論演習 PHA-7832 | ・薬物動態制御因子である薬物トランスポーター及び薬物代謝酵素を介した薬物相互作用に関する学術論文の読解と討論 ・製剤及びドラッグデリバリーシステムに関する学術論文の読解と討論 ・課題研究についての報告と討論 ○渡辺一弘・○丁野純男・佐藤隆司 |
| 個別化医療 薬学 | 遺伝子解析学特論演習 PHA-7833 | ・遺伝子解析学に関する論文の読解・発表・討論、症例検討をとおして、研究計画の立案、研究手法、データ整理の方法を学び、問題解決能力と薬物治療の実践力を身につける。 ○三浦 淳・○多田 均 |
| | 臨床薬物動態学特論演習 PHA-7833 | ・臨床薬物動態学特論および課題研究に関連した文献調査 ・臨床薬物動態学特論および課題研究についての報告・討論 ○猪爪信夫・○戸田貴大 |

○：研究指導教員

- 成績評価
特論演習に対する取り組みを総合的に評価する。